

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070300688
法人名	株式会社ウキシロセンター
事業所名	グループホーム いこいの里中原
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市戸畑区中原2丁目7-8 (電話) 093-873-3151

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年11月9日	評価確定日	11月17日

【情報提供票より】(平成19年10月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	15人, 非常勤 2人, 常勤換算 15.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての3階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)21,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月24日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	4名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.6歳	最低	74歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池園医院 / 戸畑けんわ病院 / 牧山中央病院 / 戸畑共立病院 / 荒井歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「いこいの里中原」は、ウキシログループの3つあるグループホームの1つである。戸畑区の成熟した住宅地に位置し、3階建ての屋上からは、周辺が一望できる環境にある。グループホーム運営の実績を活かし、社員寮をリフォームし、広い共用空間と多様な居室の空間づくりに工夫が見られる。グループホームの日課として、街なかの立地特性を活かし、入居者と共に食材の買い物と散歩を欠かさない。今年も、グループとしてのスケールメリットを活かし、家族と共に温泉に1泊する旅行も実践し、入居者の楽しみや喜びにつながる取り組みにも積極的である。訪問調査の際には、冬物の室内履きを入居者一人ひとりに好みのカラーや履き心地を聞きながら、室内履きを決めており、入居者の意向をくみ取る努力をされていた。また、建物の構造上、夜勤3名体制で見守りを行っているため、大きな安心と信頼が持てるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回調査の結果をふまえ、「グループホームでやるべきケアと何か」を掘り下げ、デイサービスとは異なる、毎日の暮らしのあり方を再度検討し、「その方がその人らしく生きる」「家庭的であること」に力点を置き、ケアの改善すべき点を改善した。また、職員の勤務環境を整えることを重要とし、給料面の処遇改善や職員の能力アップのための対策など改善を行った。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員の主要メンバー数名を協議を行い、日々のケアを振り返る機会としてとらえ自己評価を行った。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議では、行事報告や地域行事の情報交換を行っている。また、職員の危機管理や教育のために事故報告やひやりはと報告を行い、様々な意見交換を行い、サービスの質の向上につながるよう努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 運営推進会議は、家族の意向や要望を言っていたりする機会としてとらえ、家族の参加をお願いしているが、現在のところ、スケジュールなどが合わず、参加が少ない状況にある。しかし、家族の面会や訪問時には、記録などを見ていただきながら、状況報告を行うと共にケアの意見や要望を言っていたりするように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎日の買い物において、お世話になっている薬局や米屋の方の人脈により、地域の方を紹介していただくなど、徐々に地域との関係性を高める努力をしている。町内会や消防団には参加している。現在、地域の高齢者ケアのアンテナショップを目指し、介護や介護保険の相談があれば、その都度対応している。今後はアンテナショップとして、ケアが必要な地域の方々のニーズに応え、適正なケアが受けられるようにコーディネート機能を高めていきたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「信条:介護を通し真の人間性を追求することにより、社会に貢献する」「目標:寝たきりにさせない日々の努力と楽しく過ごす為の協力を惜まず家族の安心と信頼のもてる施設づくり」「目的:高齢者の心身状態あるいは家族の環境に合わせて在宅と同じような状態の中で自立し終の住家としての穏やかな生活のできる介護を目指す」を掲げている。地域密着型サービスの理念が求められる。		平成18年の法改正により、地域密着型サービスの理念が求められ、地域との関係づくりなど、理念の文書の追加又は修正が必要である。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をふまえ、毎日の暮らしの中で日課として、自立支援の取り組みとして、買い物・散歩・食事づくりに力点をおき、入居者一人ひとりの能力や役割を本人の負担にならないように配慮し取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の買い物先である薬局や米屋など地元のお付き合いを通して、地域の人脈を広げている段階にある。町内会や消防団には参加しており、地域の方々が気軽に介護や介護保険など相談できるアンテナショップを目指し、適切な介護が受けられるコーディネーター機能を果たしたいと考えている。		町内会や消防団、地域行事である戸畑祇園の参加など地域連携に努めているが、運営推進会議の地域の方々の参加協力をあおぐなど、更に地域との連携を高めることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価をふまえ、グループホームの役割を再検討し、毎日の暮らしの中で、買い物・散歩・食事づくりを柱にケアの充実を図っている。また、職員の給料面など待遇改善に取り組み、職員の自己実現を図ると共に、働きやすい環境づくりを整えている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事報告や地域行事の情報交換を行っている。また、職員の危機管理や教育のために、事故報告やひやりはっと報告を行い、サービスの質の向上につながるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会に所属し、協議会を通して北九州市介護保険課と意見交換を行うなど、行政との連携を高めている。また、戸畑区介護保険課・地域包括支援センターから入居者の相談の際には、ウキシログループとして入居の対応が可能かどうかを検討するなど、行政との情報交換を行い対応している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	職員全員に権利擁護の理解はあるが、ウキシログループとして契約している弁護士の相談できる体制があり、北九州市の弁護士会・「らいと」「みと」、社会福祉協議会と連携を取り、適切な対応ができるように努めている。		
4. 理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、定期的に家族へ入居者の状態報告を行い、金銭についての報告も行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は、家族の意向や要望を言っただけの機会としてとらえ、家族の参加をお願いしている。現在のところスケジュールが合わず、参加が少ない状況にある。しかし、家族の面会や訪問時には、記録などを見ていただきながら、状況報告を行うと共にケアの意見や要望を言っただけのように努めている。		運営推進会議の家族への参加を更に働きかけることが求められる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は全入居者の情報を把握し、なじみの関係があり、職員の異動や離職による大きなダメージやストレスが起きないように配慮している。異動や離職がある場合には、入居者の状況により、事前に説明を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用に当たっては、資格よりもコミュニケーション能力や対人的な視点を持てる人、社会性のある人などを採用している。また、職員の勤務状況などを把握するために定期的に自己評価の機会を設け、自己評価の結果をふまえ、職員が意欲を持って働けるようにサポートを行う体制がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	毎月定期的にホーム内でのミーティング、全事業所を対象にした社員ミーティングなどを行い、その中で人権教育を行っている。特に言葉の虐待に関しては、職員の意識を高めるよう努めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	グループホーム協議会やウキシログループとしての研修など、多様な研修の情報を把握し、職員のスキルアップを図るためにローテーションを工夫し参加できるように努めている。また、主任やサブリーダーなど、職員のポジションやレベルによって、研修が受けられるように支援している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会や戸畑区の事業者連絡会に所属しているため、積極的に情報交換を行っている。今後は、特に戸畑区におけるグループホーム間の連携を高め、気軽に相談できる関係を作りたいと考えている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前より家庭訪問や面談などを行い、グループホームとしてのケアの内容やリスクなどを説明している。また、入居者と1対1で話し、意向や要望を把握し、入居前には職員がしっかりと対応できるように事前準備を行っている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	毎日の日課として、買い物と食事づくりに力を入れており、食事づくりは入居者の能力を活かし、入居者が作る30の献立がある。この30の献立を毎日の献立に取り入れ、入居者が食事づくりに関わる場面を作っている。また、居室の掃除や洗濯物たたみなど、その時の入居者の状態により、できることを行っていたくようにして		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は入居者一人ひとりの情報を集め、統一したケアができるようにセンター方式を採用しており、思いや意向の把握に努めているが、思いや意向に関する記録が少ない。職員の気づきをメモ程度で記録し、一定の期間を通して、総合的に分析するなどの対応が求められる。</p>		<p>センター方式を採用しているので、日々の入居者のつぶやきや表情などを書き留めていくことが求められる。センター方式のシートに職員のその時々気づきをメモ程度で記入していくなど対応されてはどうか。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>長期目標に基づいた、具体的な短期目標の設定が求められ、毎日の暮らしの中で、短期目標を意識したケアの内容が求められる。</p>		<p>短期目標設定により、日々のケアの内容・実行に目を向けることができ、更なるケアサービスの質の向上が期待できる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとに定期的な見直しを行い、状態変化が生じた場合には、現状に即した介護計画を立てるようにしている。短期目標設定により、1カ月ごとの見直しができ、さらなるケアの質の向上につながると考えられる。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>グループホームが3事業所あるため、連携・協力体制があり、温泉1泊旅行なども実施している。また、法人では、介護付き有料老人ホームも運営しており、入居者や家族の意向によっては、住み替えも可能でスケールメリットを活かした、柔軟な対応ができる体制を構築している。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医とは常に連携を取っており、グループホームの主治医の往診が月2回あり、医療との連携は24時間取れる体制を構築している。また、入居者の症状や状態によって、適切な医療診療が受けられるように支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	3つのグループホームの連携により、ターミナルケアに取り組んでいる。ウキシログループ独自の対応指針及び同意書が整備されている。対応指針には、信条・医療連携体制・看取りの時期・職員配置など定められている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	個人情報の取り扱いには、十分注意し保管・管理を行っている。パソコン内の個人データは、廃棄など処分の仕方の徹底を図っていく方針である。入居者への言葉かけは、入居者一人ひとりに合った言葉かけを行い、本人のプライドを損ねないように取り組んでいる。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的な1日の過ごし方はあるが、朝礼時にフロアリーダーが入居者の状態を判断し、1日の過ごし方の優先順位を決めている。入居者のペースを考慮しながら、臨機応変に職員配置も変え対応している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事を楽しんでいただけるように毎日の食材の買い物は職員と入居者が行っている。また、料理も入居者ができるメニューを組み入れ、食事づくりを楽しんでいただけるように支援している。外食も毎月1回は楽しんでいただけるようにしている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴日は決めているが、入居者の意向や状態変化に応じて臨機応変に対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	年間の行事計画があり、その中では季節感を感じることができるよう外出の機会が多く組まれている。1月は初詣、3月は梅ツアー、4月はお花見、5月はつつじツアー、6月は菖蒲祭り・紫陽花ツアーなど。また、誕生日には、ご本人が何がしたいのか希望を聞き、計画を立てるようにしている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日課として、街なかの立地特性を活かし、買い物や散歩を楽しんでいただけるように支援している。近くの特別養護老人ホームの協力により、行事に参加したり、外出の機会を多く作るように努力している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関は基本的に鍵をかけない方針であり開放している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	地域の消防団に参加し、災害時の対応に備えている。半年に一度、消防署に指導のもと避難訓練を実施している。		災害時に備え、地域との連携が重要なものとなっている。運営推進会議や町内会の会合などの機会をとらえ、地域の協力が得られる体制を構築していく必要がある。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	入居者一人ひとりの食事量の摂取記録があり、食事面の管理を行っている。水分摂取量に関しては、記録の充実が必要である。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	3階建ての建物の1階・2階に広々とした共用空間があり、天井は間接照明が設置され、居心地の良い空間となっている。駐車場スペースはそうめん流しやパーベキューなどの場に活用し、共用空間と共に憩い・ふれあう場として工夫されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居者はミニ冷蔵庫・仏壇・タンスなど個人の物が持ち込まれ、塗り絵の作品や写真などが壁に飾られ、入居者の住まいとしての空間づくりを支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			